



令和5年度

運営に関する計画

自己評価
(最終反省)

(案)

大阪市立デザイン教育研究所

令和6年1月

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

組織目標

学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”や“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

現状と課題

大阪市は、大正12年にデザイン・造形・美術を専門的に学ぶ大阪市立工芸学校を設立した。その後、社会の国際化・情報化の進展により情報機器を活用した新しいデザイン技術が必要になってきたことから、高等学校のデザイン・造形に関する学科で学んだ専門的な能力をさらに伸長させ、豊かな想像力と国際感覚を持つデザイナーの育成に取り組む継続教育機関として、昭和63年に大阪市立デザイン教育研究所を開設した。以来、35年にわたって創設時の理念を継承し、高度なデザイン教育を提供することで、これまで国際文化都市大阪の発展に寄与しうる優れた人材を育成してきた。本研究所は2年制の工業専門課程を有する専修学校であり、産業デザイン分野における全国唯一の公立専修学校として、デザインに関する知識・技術の向上をめざしている。現在各学年の定員は45名、総定員数は90名となっている。

他府県からも志願者が多数あり、本研究所の教育活動に対して一定の評価を得ている一方で、大阪府立工芸高等学校からの志願者が伸び悩んでおり継続教育機関としての役割が低下していることも事実である。本研究所は、工芸高校に隣接し、校舎として4階建ての施設の1～3階部分を使用している。4階部分は工芸高校の格技室となっており、出入口などの動線は別になっているものの施設自体が工芸高校と併用される形となっており、工芸高校の府への移管に伴い様々な問題が起きている。

このような学校や学生の実態を踏まえたうえで、本校のシステムや特徴を十分に活かし、これまでよりも一層学生一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな指導が実現できるような学校をめざしていきたい。

中間目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 勤労観・職業観を育てるとともに、自己の使命感の確立を目指す。
- 「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 社会で自立できる人材を育成する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教育D Xの推進によりカリキュラムの改革を図る。
- 積極的な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進める。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○昨年度の工房での事故を受け、工房の整備に努める。既存の電動工具の整備を進め、適切に運営できるようにメンテナンスを行うとともに使用予定のない工具の廃棄等を適宜行いながら、作業環境の改善をめざす。また、防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、実際に体験して学んだことを生かすだけでなく、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。

○今年度はインクルージョンとサステナブルデザイン演習の授業を新設し、学生一人ひとりが、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる社会の実現をめざし、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を推進する力を育成する。また、「世界自閉症啓発デー」等に取り組むことにより、障がい者を含む全ての人々の社会的、経済的及び政治的なインクルージョンを通じて、不平等を減らす姿勢を育成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○ 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。また、様々な経験を通して協働する姿勢を育成する。

○ 教師や講師からの一方通行的な授業ではなく、アクティブラーニングにより、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自己の考えを表現できる力を育てる。また、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネスコミュニケーションを身につけさせ、ビジネススキルを高める。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○ ICTを効果的に活用し、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざすとともに、現代社会の著しい科学技術の進歩による急激な変化に対応した「社会に開かれた教育課程」の開発を進める。

○ HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することでより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知されるよう広報活動に取り組む。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○ 使用予定のない工具については概ね適切に廃棄等を行うことができた。しかしながら予算の関係もあり整備は不十分である。今年度のカリキュラム改革によって来年度は時間割の中に木育の授業を位置付けたので、計画的に整備を進める予定である。

○ 「世界自閉症啓発デー」の活動に取り組み、インクルージョンの授業を受講したことにより、学生一人ひとりが、自らの望む生き方を考える良い機会となった。春に行われる、サステイナブルデザイン演習の授業も積極的に参加してくれることを期待している。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 大きなプロジェクトとして令和6年4月に開校する中之島小中一貫校の校章、エンブレムを作成した。選考委員には東京オリンピック・パラリンピック大会や大阪・関西万博のエンブレム等で選考委員を務められた京都精華大学の増永あきこ先生に指導していただき貴重な機会となった。

【学びを支える教育環境の充実】

○ HPでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問等を強化し広報活動に努めたが、残念ながら志願者を増やすことができなかった。今年度初めて高校での出前授業を実施し好評であったので、来年度は更なる広報活動に努めていく。

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○ 教室における講義中心の知識偏重ではなく、企業・団体・他大学などと連携し、現場の声を直接聞きながら、実体験としてリアルなデザインの仕事の流れ、問題解決の難しさを学ぶとともに、個人で課題を進めるだけでなく、積極的なコミュニケーションを通じた学習で、社会で役立つ問題解決能力を身につけさせる。 ○ 「世界自閉症啓発デー」等に取り組むことにより、障がい者を含む全ての人の社会的、経済的及び政治的なインクルージョンを通じて、不平等を減らす姿勢を育成するとともに、生徒一人ひとりが「自分を大切にすること」の意義を理解し、自分のことを深く知ることによってVUCA（ブーカ）の時代を生き抜く力を育てる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 学生が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自らの力で生き方を選択していくことができるよう、必要な能力や態度を身に付けることを通じて、社会的・職業的自立を促す。 指標 年度末での学生の就職先におけるクリエイティブ関連企業への就職率の割合を90%以上とする。	B
取組内容② 「新しい生活様式」において、地域や企業等と連携し、職業に関連したキャリア教育に取り組む。 指標 学校評価アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70%以上とする。	A

取組内容③ 防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、実際に体験して学んだことを生かすだけでなく、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。 指標 在校中に安全で安心な社会づくりに貢献するプロジェクトに少なくとも1回は参加する学生の割合を70%以上にする。	B
取組内容④ 集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行う。 人権教育に関する活動を通じて、他者や障がいをもつ人へ配慮する気持ちを養い、人権意識の向上に努める。 指標 学校評価アンケート「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の形成」の評価数値を昨年度以上に向上させる。	B
取組内容⑤ 我が国や郷土の文化・伝統を尊重し、広く伝えとともに、世界における多様な文化を理解し合い、それぞれの文化的アイデンティティを尊重しながら、課題の解決を図っていく態度の育成を図る。 指標 年間1回は日本の文化や伝統についての体験的な学習を企画し、教育課程内外における多文化共生教育の推進に努める。	B
取組内容⑥ 奨学金業務の円滑な運営により、生徒が経済的な面で安心して学校生活を送れるようにする。 指標 奨学金の広報活動を工夫し周知徹底に努め、奨学金申請に関するトラブル件数を0にする。	A
取組内容⑦ 情報社会の進展に応じた情報モラルを身につけさせ、自分だけでなく他人の個人情報・法律上の権利を尊重できる態度を養い、適切な情報発信の手段・方法について指導する。 指標 成人年齢の引き下げに伴い自分の責任の大切さを理解していると答える学生の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○ 使用予定のない工具については概ね適切に廃棄等を行うことができた。しかしながら予算の関係もあり整備は不十分である。3Dプリンターや切削加工機は旧式となり、新しい時代にマッチしていないのが現状である。

○ 「世界自閉症啓発デー」の活動に取り組み、インクルージョンの授業を受講したことにより、学生一人ひとりが、自らの望む生き方を考える良い機会となった。春に行われる、サステナブルデザイン演習の授業も積極的に参加してくれることを期待している。

次年度への改善点

○ 今年度のカリキュラム改革によって来年度は時間割の中に木育の授業を位置付けたので、工房の機器については計画的に整備を進める予定である。また、来年度は工房の整理や整備だけでなく、各教室の責任者を任命することでデザイン教育研究所全体の整備を図る予定である。

○ 社会全体に目を向けることはできるようになってきたので来年度は、学校評価アンケート「学生一人一人の能力・適性を生かし、主体的に進路選択ができるように、きめ細かい進路指導が行われている。」の肯定率を70%以上となるように努める。

大阪市立デザイン教育研究所 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○ プロジェクト学習や学校行事等での様々な経験を通して協働する姿勢を育成し、コンセプトワークや企画書の作成・プレゼンテーションのノウハウ、言葉遣いやマナーなどのビジネスコミュニケーションを身につけさせ、ビジネススキルを高める。 ○ 教師や講師からの一方通行的な授業ではなく、アクティブラーニングにより、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自己の考えを表現できる力を育てる。また、ICT等を活用して学生の興味・関心を引き出す授業を進める。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 学生一人ひとりが専門分野の自信と幅広い知識のバランスを獲得することで、21世紀を生き抜ける「T型人間」の育成をめざす。 指標 学生一人に対して複数のプロジェクトに参加させ、年度末のデ研展で報告できた学生の割合を80%以上にする。	A
取組内容② グループワークや課題に協働して取り組ませることで、自己の考えを表現できる力を育て、外部の方に自分たちの取り組みをわかりやすく説明できるようにアウトプットする能力の向上を図る。 指標 デザイン教育研究所の取り組みを外部の方に積極的に説明できたと自己分析できた学生の割合を75%以上にする。	B

取組内容③ メディア・ユニバーサルデザインの基礎を正しく理解し、多くの人が「読める」「わかる」情報を発信することが、情報を発信する側の社会的役割であることを意識し、さらなる利便性の向上に向けて取り組む人材を育成する。 指標 1年次におけるメディア・ユニバーサルデザイン教育検定の合格者の割合を70%以上とする。	B
取組内容④ クリエイターとしての必要な英語能力を身につけ、デザインの力を現場で発揮できるように、デザインに関する簡単な英語の文章や会話を理解できる力を育成する。 指標 在校生全員にTOEICを受験させ、スコアが500点以上の人数を昨年以上にする。	B
取組内容⑤ 学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、学生が自ら考え、他者と協働しながら物事に取り組み、やり遂げることで、自尊感情や社会人基礎力の育成の一助とする。 指標 学校行事への参加率を昨年以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 大きなプロジェクトとして令和6年4月に開校する中之島小中一貫校の校章、エンブレムを作成した。選考委員には東京オリンピック・パラリンピック大会や大阪・関西万博のエンブレム等で選考委員を務められた京都精華大学の増永あきこ先生に指導していただき貴重な機会となった。 ○ グループワーク中心の授業において他者との協働を通じて、自己の考えを表現できる力を育てることができた。また、今年度は課題研究においても新たに中間発表の場を設定し研究の狙いと進捗状況発表の機会を設けた。
次年度への改善点
○ プロジェクトの取り組みは学生にとって貴重な体験の場となっている。しかしながら、時期が重複したり課題等との兼ね合いや学校行事との重なりなどがあり、疲れ切ってしまう学生も多くみられる。来年度は学生の負担も考慮しながらプロジェクトに取り組んでいく。 ○ 来年度は淀川・大和川右岸水防事務組合連合会と連携し、水防事業の広報等に関するポスターを制作するプロジェクトを企画している。デザインを通じて防災についても学ぶ貴重な機会になると思われるので、積極的に学生を指導することでプロジェクトを更なる特色のある活動にしていく。

大阪市立デザイン教育研究所 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○ ICT を効果的に活用し、これまでの実践と ICT を最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざすとともに、現代社会の著しい科学技術の進歩による急激な変化に対応した「社会に開かれた教育課程」の開発を進める。 ○ HP での情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問による広報活動を強化することにより広く本研究所の取り組みを周知し、大阪市内だけではなく大阪府や他府県のデザインに興味がある高校生の進学先として認知される活動に取り組む。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任を持つとともに犯罪被害を含む危機を回避するなど、情報を正しく安全に利用できるようにするための情報モラルの育成を図る。	B
指標 各授業担当者が年 1 回以上授業において、情報モラルについての指導を行う。	
取組内容② デザイン教育の活動において専門性を十分に発揮できるよう「学び続ける教員」を支え、研修・研究などを公共機関や民間企業と共同開発し、教員の指導力向上を図る。	B
指標 大阪商工会議所西支部を中心とし複数の事業所が講師となるオン・ザ・ジョブ・トレーニングに年間 10 回以上参加する。	

取組内容③	C
学校説明会や学校訪問の資料を作成し、本校受験希望者の本校への理解を深めるために学校説明会・学校訪問等を積極的に実施する。	
指標	A
学校説明会を年間４回以上実施する。在籍生徒の母校を中心に学校訪問を５０校以上実施する。	
取組内容④	A
教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が学生たちの前で健康で生き生きと働くことができ、学生たち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境の実現に取り組む。	
指標	A
教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準１で５０％以上、基準２で７５％以上とする。	
取組内容⑤	B
ＩＣＴの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。	
指標	B
ストレスチェックの総合（健康リスク）の評価を100にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○ ＨＰでの情報発信をはじめオープンキャンパスや入試説明会、学校訪問等を強化し広報活動に努めたが、残念ながら志願者を増やすことができなかった。今年度初めて高校での出前授業を実施し好評であったので、来年度は更なる広報活動に努めていく。 ○ 今年度は授業の精選を行い、令和６年入学生から始める新しいカリキュラムの改革に取り組んだ。これにより後期に関しては土曜を休校日にすることができるようになった。	
次年度への改善点	
○ 来年度は入学から卒業まで広報や就職を担当する進路部を組織の中に新設し、一元管理する仕組みを整える予定である。今年度は入学志願者が定員割れとなってしまったが、来年度は志願者増を目指す。 ○ 新しいカリキュラムの改革に取り組んだ結果、カリキュラムデザインの授業を新設し、早くから自身のポートフォリオを作成させることによって早い時期での就職内定につなげられるように指導していく。	